蕾の悦虐（ロリマゾ）第３話

ママと歩む Slave Road

濠門長恭

目次

１．ひとり遊び ..... - 3 -
２．ムチの初体験 ..... - 21 -
３．家族で入浴 ..... - 60 -
４．調教ルーム ..... - 76 -
５．ママとレズ
６．逆親子どんぶり
７．ちつ性感開発
８．お立ち台と木馬と自転車と
９．エッチな衣装で初もうで
１０．花電車特訓
１１．全裸ウェディング
後書き

１．ひとり遊び

今日は金曜日です。日曜の夕方まで、ママはセールスレディの研修合宿で帰ってきません。というのはウソで、ご主人様の調教を受けているんだということくらい、わたしは知っています。

ママはときどき、パワーストンのブレスレットを両手に着けますが、それでも、手首の細長い赤いアザがすけて見えることもあります。うっかりドアを開けたまま着がえをしているママの背中に、赤黒い筋が何本もあるのを見たこともあります。

おとまり会に行ったときには、その子のママもいっしょにおふろに入って、おまたがモジャモジャなのにおどろきました。だって、ママはいつもツルツルだからです。

うちのパソコンには、アダルトフィルターとか設定されていません。ＳＭとか調教とかパイパンとか、文字も画像もえつ覧できます。

だから。ママはそうなんだと、納得したのです。そんな変態でエッチなママをきらいに

なったかというと、そんなことはありません。ママはどんな調教を受けてるのかなと、あれこれもう想するようになりました。

調教ではなくて、えん助交際かもしれません。

うちはママと二人暮らしの母子家庭だけど、お金に困っていません。おうちは２ＬＤＫの賃貸マンションです。お仕事に必要だと言って、ママはブランドファッションを何着も持っています。フィットネスやエステにもかよっています。だから、すごくスタイルが良くて美人です。

わたしも、クラスの中ではおしゃれな服装をしているほうです。

おっと。今は午後４時。たぶん午後７時か８時ころに、ママから電話があるでしょう。そのときには、電話に出れるようになっていないといけません。

わたしは学習机の上に立って、天じょう裏の入口を開けました。手探りで段ボール箱を引き寄せて。その中身をベッドの上に並べます。ちょっとだけ、ドキドキです。

それから、はだかになりました。

ママにおねだりして買ってもらった大きな姿見の前に立って、両手を頭の後ろで組んで足をすこし開きました。『ほりょのポーズ』です。

初潮はまだですが、この半年間でずいぶんと女っぽい体型になってきました。ジュニアブラをしていないと、ナワとびのときなんか、ほんのちょっとだけど、おっぱいがゆれます。ウエストがすこしくびれて、逆にヒップが張り出してきました。

そして、おまたにもぽよぽよした黒い毛が、ちらほら。わきの下は――ちゃんと、お手入れしています。

自分のはだかを見ているうちに、エッチな気分が高まってきました。

バスルームで、シャワー。頭は洗いませんが、おまたはていねいに。

洗面所の引き出しから新しいソープネットを取り出して、冷蔵庫の氷をたくさん入れます。あと、キッチンから大きなバットを持っていきます。野球のバットじゃないですよ。

ソープネットの口をタコ糸でしばって、おしゃれごっこで使っていたブレスレットを通

します。ブレスレットにも、５ｍのタコ糸と５０ｃｍのタコ糸とが結んであります。５０ｃｍのほうには、手じょうのカギを結びつけておきます。

図工の授業で作ったモビールが、学習机の横に天じょうからつってあります。それを取り外して、ソープネットをつるしました。ブレスレットは氷につっかえて、下に落ちません。氷がとければ落ちますが、それは２時間くらい先です。水でゆかがぬれないよう、下にバットを置きました。

アイスタイマーのセットが終わりました。つぎは、わたしのセットです。

金物屋さんで買った綿ロープを首にかけて、両はしを前に垂らします。おっぱいの上とおへその上と割れ目のすこし上の三か所に結び目を作ります。そのちょっと下には、大きな結び目を作ります。

胸がキュウンってしめつけられて、おまたのおくがムズムズしてきました。

割れ目をクパアして大きな結び目をおしこんでから、おしりの谷間を通してロープを後ろに引き上げて、首にかけてるロープに結び

留めます。まだ、ロープは余っています。左右に分けてわきの下をくぐらせて、前のロープにからめて横へ引っ張ると、大きなひし形ができます。ロープを背中で結んで、今度はおっぱいの下を通して、つぎのひし形を作ります。

ひし形が増えるたびに、おっぱいがしめつけられて、大きな結び目がおまたに食いこんできます。ちょっとだけ痛いです。ちっとも気持ち良くなんかありません。でも、どんどんひぎゃく感が高まってきます。

姿見に映して、ひし形をきれいに整えます。おっぱいはひし形の中に寄せ集めます。胸を圧ぱくされているぶんだけおっぱいがしぼり出されて、ちょっぴりグラマーになりました。

すっかり短くなったロープのはしを、割れ目の盛り上がりの外を通して、前で結びます。

それから。背中で縦横にクロスしているロープに、手じょうをおしこみます。百均ショップで買った５００円（百均じゃないです。羊頭く肉です）のオモチャですが、がんじょうで、わたしの力ではくさりを引き千切れません。

ここまでは、立っての作業でした。

ピクニックのシートをゆかにしいて、必要な道具をそろえてから、姿見の前に座ります。正座でも三角座りでもなく、はしたないアグラ座りです。足首をつかんで、ひざのくぼみに乗せると、座ぜんのポーズです。手を使わないとほどけません。でも、すねの重なってるところを、別の綿ロープでしばります。そのほうがひぎゃく的です。

まる一日はいていたショーツを裏返して、お口につめます。おしっこのにおいと苦っぽいしょっぱい味が、お口に広がります。

これだけだと、大声でうめいたときにとなりまで聞こえるかもしれないので、ガムテープで完全にお口をふさぎます。

キンバクは、ここで中断。だって、手じょうをかけてしまうと、何もできなくなります。

電動歯ブラシを上向きにして、ブラシが乳首に当たるようにガムテープではり付けます。ちょっぴりチクチクするけど、まだ全然平気です。

下向きにした電動歯ブラシは、おへその下にはり付けます。クリちゃん直げきです。皮

の上からなので、チクチクもしません。

　そうして、いよいよ。こっそり通はんで買った電動マッサージ器を、おまたに当てます。割れ目の盛り上がりの外側を通っているロープをクロスさせて、電マを固定します。それだけだと、すぐにずれたりたおれたりするので、コードの付け根をタコ糸でしばって、両ひざにつなぎます。

　まるで、オ●ンチンが生えちゃったみたいです。

　電マは１５分で勝手に止まってしまいます。そうならないよう、１０分間かくでオンオフをくり返すタイマーをつないでおきます。電マとタイマーとを買うのに、ママに内しょでお年玉貯金を使っちゃいました。

　５ｍのタコ糸のはしを、右の手首に巻きつけて、しっかり結び止めます。

　面どうな準備で、胸キュウンもおまたムズムズも、いつのまにか消えちゃってます。

　でも。これから後ろ手にしばられて快楽ごう問にかけられるんだと思うと――心臓ドキドキで、胸は息ができないくらいキュウウンってなって、おまたのおくはムズムズだけじ

ゃなくて、ジュクジュクしてきました。
　まず、乳首責めの電動歯ブラシをスイッチ・オン。すぐにクリちゃん責めも。
　ジジジジジジ……
　うああ！　ちょっぴり痛くて、圧とう的に気持ちいいです。クリちゃんからは電げきが背中までつきぬけます。
　これだけでアクメっちゃいそうです。
　でも、まだです。電マをオン！
　ブブブブブブ……！
　おまた全体がふるえて、割れ目の中の結び玉が暴れまわります。
「むふう、ふう、ふう……」
　あえぎながら、両手を後ろへまわします。高い位置にある手じょうに、手探りで手首を通して。左手で右手首の輪っかを閉じます。左手首は、手じょうのくさりを引っ張って（輪っかが手首に食いこんで、痛いです）指先で探りながら背中に輪っかをおしつけました。
　カチャ……
　これで、あと２時間は手じょうをはずせません。わたしは全身をキンバクされて、快感に責められ続けるのです。

ジジジジジジ……
ブブブブブブ……！
「むぶう、うう！　ふう、ふう……」
快感の大波がおし寄せてきます。
「ぶううっ！　むううううう……」
アクメっちゃいました。
しばらく余いんにひたっていたいけど、電動歯ブラシも電マも、わたしを責め続けています。
「ううううっ！　むぶううううっ！」
全身がびゅくびゅくけいれんして、無理に曲げている足がこむら返りを起こしそうです。頭にはもやがかかって、何も考えられません。
アクメってるときに、さらに追い上げられて……お願いだから、ちょっとだけ休ませて！
もちろん、器械は止まってくれません。気持ちいいのを通りこして、苦しいです。快楽地ごくって、これなんだと――実感しています。
目の前が、すうっと暗くなってきました。でも、し激が強すぎて、失神もできません。
ジジジジジジ……

ブブブブブブ……！
「むふっ！　むぶううっ……！」
いきなり電マが止まって。わたしは、そのまま気を失いました。
でも、またタイマーのスイッチがはいって。わたしは心地良い失神から強制的に連れもどされて、快楽地ごくにたたきこまれます。
それを何度もくり返して。
姿見の横のかべかけ時計を見ると、午後６時前です。
ぼつぼつ氷がとけ終わるころ――姿見に映っているソープネットは、あまりしなびていません。まだまだブレスレットは落ちてくれそうにありません。
ああっ……！　氷がとけるまでの時間を計ったのは、９月でした。今は１０月下じゅん。部屋の温度が下がってるから、なかなか氷がとけないのです。
いっしゅんパニクりかけました。でも、立ち直りました。無理をしてはダメ。強引にタコ糸をたぐると、切れるかもしれません。そうなったら、万事休すです。
それに……。あたしがどんなにいやがって

も、こん願しても、サディストのご主人様は許してくれないに決まっています。どんなにつらくても、たえるしかないのです。

そんなことまで、もう想しちゃいました。

電池が消もうしたのでしょう。電動歯ブラシのしん動が弱くなってきました。クリちゃんへのし激が弱まると、電マのしん動がいくら強れつでも、失神するところまでは追いこまれません。痛いのが、気持ちいいのを上回ってきました。本気でつらいです。

チャリン。

待ち望んでいた音が聞こえたのは、午後７時ちょうどでした。

右手でタコ糸をつかんで､たぐり寄せます。３時間ちかく手じょうに手首をつられていたので、指先がしびれて、思うように動きません。それでも――ずりっ、ずりっと、ブレスレットがフローリングをこする手ごたえが続きます。

ところが。不意に手ごたえがなくなりました。タコ糸はどんどんたぐれるのですが、ブレスレットがついて来ていないみたいです。

「んんっ！　んんんっ！」

上体をゆすって、左右に身体をかたむけて、思いっきり足を開閉させて（といっても、すねをしばり合わせてあるので、ちょっとしか動かせないのですけど）太ももでゆかをけって。

ロープがはだにすれて痛いです。すり傷になっているかもしれません。電マがゴリゴリおまたをこするのも、気にしてられません。

どうにか身体の向きを変えて。

ひええ！　やっぱり、ブレスレットからタコ糸がぬけています。手首にはめるとき広げられるように、ブレスレットはC形をしています。そのすきまからタコ糸がぬけたのです。

今度こそパニクりました。でも、なんとかしないと！

とにかく、ブレスレットのとこまで移動してみます。後頭部を打つのを覚ごで後ろへひっくり返れば、カギをつかめるかもしれません。

「うんっ！　うんっ……ぶぎひい！」

わずかに動かせる太ももでゆかをけって前へ進もうとしたら、電マがゆかにぶつかって、おまたをつき上げました。ものすごく痛くて、

身体を動かすどころじゃないです。
　結び玉を割れ目にうめていてよかったです。結び玉がなかったら、電マでロストバージンしてたかもしれません。いくら、わたしがマゾでも、そんなロストバージンはイヤです。
　何人もの男の人におさえつけられて、お口もアナルも女の子の穴も、同時につらぬかれるとか。自分から「犯してください」ってこん願するまでムチでぶたれるとか。そういうのが理想です。
　あ……今、どろ棒さんがしん入してくれないかな。とうぜん犯されるし、もしかするとナワをほどいてくれるかも。はずかしい写真をたくさんとられて。それが口ふうじになるから、殺される心配はないと思います。
　なんて、バカなことをもう想してる場合じゃありません！
　トルルル、トルルル、トルルル……
　ぎく。電話です。ママだと思います。
　二十回くらい鳴って、切れました。
　またかかってくるでしょう。それまでに、なんとかしないと。
　わたしは、またジタバタもがいて、カギに

背中を向けました。この格好だと、後じさりのほうが楽だと気がつきました。電マにおまたをつき上げられる心配もありません。
「うん、うん、うん……」
　すぐ、あせびっしょりになりました。太ももを必死で前後にゆすっても、ツルツルすべるだけで、ちっとも後ろへ進んでくれません。
　ゆかがかわくのを待って、あせをかかない程度に、すこしずつ――なんてしてたら、明日までかかります！　でも、ママが帰るまでにはだっ出できるかな。
　無理！　そんなにおしっこをがまんできない。おもらししたら、あせどころじゃない。
　トルルル、トルルル、トルルル……
　時計を見ると、午後８時。ジタバタしてるあいだに１時間も経ってました。
　今度は、早めにコールが切れて。すぐに再コール。
「理恵ちゃん、まだ帰ってないの？　メッセージを聞いたら、すぐママのケイタイに電話してね」
　帰ってるし、聞いてるけど。電話どころじゃないんだってば！

ママに八つ当たりしても、どうにもなりません。

わたしは、じわあっとゆかをけってみたり、右左と身体をひねってみたり、すこしでも後ろへ進もうと、もがき続けました。３０分で１０ｃｍくらい進みました。

でも、それが限界。つかれたのと、ロープがすれて皮ふがめくれて痛いのとで、身体を動かせなくなりました。

もう絶望です。ただひとつだけ、うれしかったのは。あばれすぎたので、電マがロープからぬけ落ちてくれたことです。でも、気持ちいいのが消えたぶん、はだに食いこむロープの痛みが強く意識されて――ますます、絶望が深くなりました。

わたしはもがくのをやめて、休けいすることにしました。電動歯ブラシの電池も切れて、全身をしめつけるロープ以外のし激がなくなって――そのままねむってしまいました。

目を覚ましたら、ママの顔が正面にありました。

「え……？」

窓の外は、まだ夜です。キンバクはほどかれていて、わたしはベッドにねていました。
「身体は痛むの？」
なんだか、かぜの看病をしてくれてるみたいな口調です。
「あの……ええと……ごめんなさい！」
電話に出ないし、折り返しもない。なにか異変があったと察して、ママが帰ってきてくれたのです。
それは、とても感謝しなくちゃいけないのですが。自ばくして強制オナニーしてる姿を見られてしまいました。
「ひとり遊びは危ないのよ。もうしないでちょうだいね」
幼ち園のころ、ひとりで目玉焼きを作ろうとしたときには、もっと厳しくしかられました。
「……はい」
こんなふうにやさしく言い聞かせられたら、素直に返事するしかありません。
「包帯はかわいていたほうが清潔だから、今日はこのままの姿でねていなさい」
わたしは、おまたから上を包帯でぐるぐる

巻きにされて、はだかでベッドにねています。ショーツだけは、はかせてもらってますけど。
「傷を圧ぱくするから、布団もダメよ」
「……はい」
　それ以上は何も言わずに、ママは部屋から出て行きました。
　ママは、わたしをしかりませんでした。もっとも、ママにわたしをしかる資格はないと思いますけれど。
　でも、こんなふうに「何もなかった」みたいな態度をとられると、ものすごく自己けん悪におちいっちゃいます。それが、ママのねらいかもしれません。
　ロープとか電マとか、片づけておかなくちゃ。
　わたしは、ママの言いつけにそむいて起き上がりました。
　何もかもなくなっていました。
　まさか――と思って。あちこち痛いのをがまんして、学習机にふみ台を乗せて、天じょう裏をのぞいてみましたが、段ボール箱はありません。
　ママが全部ぼっ収したのでしょう。

　でも、ママをうらんだりはしません。二度と自ばくオナニーなんかしないと、かたく心にちかいました。

２．ムチの初体験

もう、自ばくオナニーはしないと自分にちかったのですが。指でクリちゃんをいじめるくらいでは、やっぱり物足りません。

また百均ショップで電動歯ブラシを買って、それでクリちゃんをし激したり。勇気を出して、洗たくバサミにちょう戦したり。

洗たくバサミは無理でした。乳首だと３０秒くらいはがまんできますが、クリちゃんは秒殺です。快感はまったくなくて、目の前に星が飛び散るほどの激痛で降参しました。

仕方がないので、キンバクされて自由をうばわれて、クリちゃんに洗たくバサミを着けられて放置されて、泣きさけんでいる自分を想像して――アクメっちゃいました。

自縛オナニーで自爆（習ってない漢字は書きにくいです）して、１か月ほどしたころ。

ママは、結こんすると言い出しました。ママが何年もつきあっている人だそうです。

でも、その人って――もしかして、ママのご主人様かもしれません。わたしがＳＭにき

ょ否反応を示さない（どころか……）と判断したのでしょう。
「理恵ちゃんが、どうしてもいやなら、あきらめるけれど……」
　冬休みのあいだだけ、相手の家で生活してみましょうと、ママが提案しました。いっしょに暮してみて、うまくいきそうなら、わたしの卒業まで待って結こんするつもりだそうです。
　わたしだって、卒業直前に転校するのはいやですし、ママはことぶき退職ですから、お仕事の引きつぎも必要です。

　ということで。２学期が終わった次の日には、親子でその家を訪れました。早めにお昼ご飯を食べて家を出て、着いたのは午後２時過ぎでした。
　家というよりも、１０階建てのビル。剛田さん（ママのお相手）がビルのオーナーで、１階が剛田さんの経営している『ＧｏＧｏファイナンス』の店ぽ。２階から８階が貸事務所で、９階が社員の人たちのワンルームマンション。そして、１０階全部が剛田さんのお

うち。なんと、１０ＬＤＫ！　トイレが２か所にあります。

今は、剛田さんの二人の息子さんと、住みこみのメイドさんがいっしょに住んでいますが、あと二人くらいは余ゆうです。

わたしとママの部屋(二人でひと部屋です)も、ちゃんと準備されていました。とりあえず持ってきた荷物を置いて、整理はあとまわしにして、全員がリビングに集合です。

わたしとママとがソファに座って、剛田さんと二人の息子さんたちとがそれぞれ一人用のイスに座って。ドラマでもこんな格好はしないよってくらいのメイド服を着た女性は、剛田さんたちの後ろに立っています。それにしても、すっごいミニスカートです。

最初は顔合わせというか、自己しょうかいです。

剛田さんは、下の名前を智明といいます。５７才だそうです。がっちりしたタイプで、おなかが引きしまっています。顔が長方形でまゆが太いので、ゲタみたいです。

「よく来てくれたね。これから２週間、楽しく過ごしてね」

２週間とはかぎりません。絶対にどうしてもイヤだと思ったら、すぐに帰ってもいいと、ママは約束してくれました。

長男が強志さん。智明小父様と真逆のスリムな貴公子です。

「理恵ちゃんだったね。ちょっと年がはなれているけど、お兄さんだと思ってあまえてくれるとうれしいな」

強志さんは３０才だそうです。ママよりも年上！　お兄さんと思えだなんて、無理です。

次男の健志さんは２８才だそうです。やっと、ママと同い年です。

「……よろしく」

智明小父様のクローンかってくらい、そっくりですが、すごく無愛想です。

最後に、メイドさんを智明小父様がしょうかいしてくれます。

ママと同じくらいに美人ですが、冷たい印象で、ママよりもグラマラスです。ぽっちゃりとかデブじゃないですよ。

「こちらは、住みこみ女中の森沙都子。教員めん許を持っているから、理恵ちゃんの家庭教師にもなってもらう」

　え……？　今、女中って言いましたよね。昭和世代って、差別語にどん感なんでしょうか。
「美知は、みな様ともう何度もお会いしているから――理恵ちゃん、ごあいさつなさい」
　ママの名前は美知枝です。それを略すなんて、女学生みたいだなあと思いました。それに、声がうわずってます。やっぱりきん張しているのでしょう。
「ええと……理恵です。こんな大家族で暮らしたことがないので、自分勝手なことをしてご迷わくをかけるかもしれませんが、よろしくお願いします」
　何日も前から考えておいた、とっておきのごあいさつです。
「そうだね。自分勝手なことをするのは、よくないね」
　あれ？　想定外の反応です。
「ひとりでＳＭごっこなんかすると、１０月のときみたいになるよ」
「ママ……言いつけたの！？」
　わたしはママをふり返りました。
　ママは、じっとわたしを見つめています。

でも、返事をしてくれません。
「話をさえぎるんじゃない」
　小父様が、きつい声でわたしをしかりつけます。
「むすめのシツケもろくにできんのか？」
　これは、ママに向かってです。
「申し訳ありません。どうか、ロリエを厳しくしつけてやってください」
　ママはソファからすべり落ちて土下座しました。
　なに、これ？　なんだか、もう想の世界が、いきなり現実と入れかわったみたいです。それに、ロリエって……？
「こっちを向け、ロリエ」
　わたしのことでしょうけれど……？
「ひとり遊びはしないとビッチに約束したそうだが、あてにはならんな」
　ビッチ……めす犬？
「自ばく遊びはつつしんでいるようだが、洗たくバサミを使っていては大同小異だ」
　えええーっ？　ママにばれてる！？
「それでも物足りなくなって、出会い系サイトかけい示板かＳＮＳラインか――調教して

くれる相手を物色するようになる」
　うぐ……まだ実行はしていませんが。ちらっとくらいは考えたことがあります。わたしくらいの年れいで『いじめてください、処女をうばってください』なんて、引く手あまたですよね？
「そんなことをすれば、おまえは三つの危険にさらされる」
　今度は『おまえ』です。もう、わけがわかりません。
　でも……これが現実でなくてもう想だとしたら。ああ、こういう展開もありだなと、思っちゃっています。
「第一に、ＳＭプレイの画像が流出して、おまえの将来が台無しになる危険がある」
　ＡＩＤＳに感染させられる危険もあると、剛田さんは言います。それどころか、手加減をできずにか故意にか、殺されるおそれもあると――おどかされました。
「安全を確保したうえで、おまえのひぎゃく願望を満たしてやりたいとビッチに泣きつかれて――親子まとめて調教してやろうと決めたのだ」

うああ！　完全にもう想の世界が現実化しちゃいました。
でも……でも！　現実ってことは、１日２４時間、１年３６５日、ずううううっと続くってことです。それは電マでこりています。いいえ、それ以前に……
「絶対にイヤです！」
わたしはさけんじゃいました。
「小父様がママと結こんしたら、わたしはむすめになるんですよ。むすめを調教するだなんて、無茶苦茶です！」
「それはちがう。わしとビッチが結こんしても、養子えん組をしないかぎり、おまえは赤の他人だ」
そういう問題じゃないです。
「実のむすめを犯す父親なんて、めずらしくもない。連れ合いのむすめを調教するくらい、どうということもない」
「そ……！」
そんなの、どこか間ちがってます。でも、うまく言えません。
小父様が、にやりと笑いました。
「イヤなら無理強いはしないよ」

　あれ……？　もしかして、わたしは試されているのかもしれません。
「ロリエの気が変わるまで、のんびり待ってあげよう」
「あの……？」
　ちょっとひょう子ぬけしながら、わたしはたずねます。
「さっきから、ロリエとかビッチとか、どういう意味なんですか？」
「美しいという漢字はビとも読む。ミチエ、ビチエ、ビッチ――そういう意味だ」
「親父も言ったように、養子えん組をしなければ、おまえのみょう字は山口のままだ。漢字の口とカタカタのロは似ているから――おまえの名前は、山・ロリエになるね」
　強志さんも解説してくれました。
「……」
　絶句するしかありません。
「ロリエの気が変わるまで、すこし遊ぼうか」
　小父様が立ち上がって、バカ広いリビングの中央へ移動しました。そこにレジャーシートを広げて。
「こっちへおいで」

ものすごくいやな予感がしましたが、断わる理由も思いつかなかったので、言われたとおりにしました。
二人の息子さんたちも立ち上がって、わたしを左右から取り囲みます。
小父様が正面に立って、わたしの手首をひとまとめにつかみました。そして、ナワを巻きつけます。
「何をするんですか！？　無理強いはしないって、言ったじゃないですか！」
いきなりのＳＭプレイに、わたしは本気でこう議しました。おびえてもいます。
「無理強いといっても、実際に何をするかわからなければ判断できないよね。いわば、お試しだ。いっしょに暮らしてみるのと同じことだよ」
へ理くつにもなっていません。
わたしはにげようとしましたが、かたとこしを両側からつかまれて、身動きできなくされてしまいました。
手首が真上に引き上げられて、ナワがシャンデリアに結びつけられました。
右のひざにもナワが巻きつけられて、強引

に引き上げられました。そのナワをかべの照明器具につながれて、わたしは右足を真横に大きく開いた姿で、左足一本で立っていなければなりません。
「やめてください。もう、ＳＭのオナニーはしません。許してください」
　もしかすると……ＳＭなんてこりごりと思わせる作戦かなと、まだわたしはあまいことを考えています。
「それはそうだろうな。オナニーの必要がなくなるまで、たっぷり遊んでやる」
　剛田さんの言葉づかいが変わってきました。きっと、ママを調教するときも、こんな感じなのでしょう。
「ママ、こんなのはいや！　今すぐおうちへ帰りたい」
　わたしはママをふり返って――ええっ？　ママはいつのまにか、全らになってゆかに座っています。
「ピイチクパアチク、うるさい小むすめだ。ビッチ、黙らせろ。こいつはパンティが好物だったな？」
　ママはぬいだショーツを裏返して丸めて、

私に近づきます。
「お口を開けてね」
「やめてよ。イヤだって言ったら、すぐ帰る約束でしょ」
　不意にショーツをつっこまれないように、顔をそむけてうつむいて、しゃべるのもちょっとしかお口を開けません。
「それは、そうだけど……ごめんなさい、だんな様のご命令には逆らえないの」
「まだるっこしい」
　剛田さんは、ママの手からショーツをひったくると。
　どすん。いきなり、わたしのおなかをなぐりつけました。
「うええ……！」
　すごく痛いのですが、それよりもはき気がこみあげてきます。うっかり開けてしまったお口に、ショーツがおしこまれました。
「ガムテープも好きだったな？」
　２か月前の自ばくオナニーの再現です。いいえ、ずっとひどいことになりそうな予感がしています。
「むすめと約束したんです。どうしてもイヤ

なら、すぐ家に帰らせると」
「おまえが勝手にした約束など、知らん。それに、本気でいやがっているようには見えんぞ？」
「んんん！　んんんーっ！」
　わたしは、ぶんぶんと頭を横にふりました。
「ん？　どうした？　言いたいことがあるなら、はっきり言え」
　サルグツワをされていて、しゃべれるわけがありません。
「むぶう！　んんん！」
「よしよし。そんなにさいそくしなくても、すぐにいじめてやる」
　剛田さんのクローンのほうの健志さんが、大きなカッターナイフを取り出しました。
「んんん？」
　こわくはありません。こんな場面でナイフが出てくれば、目的はわかっています。
「動くとケガをするぞ」
　スカートのこし回りにナイフをつっこんで、縦に切りさきました。右足をつってあるから、そうしないとぬがせられないのです。
　そして、いきなりショーツも切りさきまし

た。順番がちがうと思います。
「ふん。生意気なものを生やしておるな」
　おまたの毛のことでしょう。
　ナイフがセーターをきりさきます。縦に切っただけではぬがせられないので、背中もうでの部分も、つぎつぎと切っていきます。
　それから、同じようにしてブラウスもはだ着もジュニアブラも切りさかれました。
　わたしは全らにされて、片足立ちでつられています。これから、何をされるんでしょうか。ムチ打ち？　それとも、おっぱいとかおまたをいじられるんでしょうか？
　ことわっておきますけど、どっちも期待なんかしていません！　ほんとうに、わたしはおびえているんです。
「まずは、生意気なものを燃やしてしまおう」
　剛田さんはライターを取り出しました。
　シュボッ……ほのおを最大に調節しました。
　ライターがおまたに近づきます。
「んんんっ！　んんんん！」
　頭をブンブンふっても無視されます。にげることもできません。
「じっとしていないと、やけどするぞ」

じっとしてても、やけどします。
ライターのほのおが、おまたの下にかくれて……
熱いっ！
熱せられた空気がむわあっとおなかをなで上げて、タンパク質のこげるいやなにおいが鼻をつきます。
「んん……？」
熱さは、すぐに消えました。
ウェットティッシュで、ごしごしとおまたをこすられました。ちょっとだけひりひりするけど、やけどまではしなかったみたいです。
それを３回くりかえされました。うつむいてのぞきこむと、１年前と同じように、ツルツルになっています。でも１年前とちがって、割れ目のまわりがぷっくり盛り上がっています。毛がなくなったので、それが目立ちます。
レジャーシートの上には、黒い燃えカスが散らばっています。用意周とうです。
「お試しだから、いろんなムチを味わわせてやろう」
応接セットのテーブルをわたしの目の前に移動させて、そこに何種類ものムチをならべ

ました。
　うわあ！　わたしに見分けがつくのは、バラムチと一本ムチと乗馬ムチくらいですが、それもいろんなのがあります。
「これはソフトＳＭのプレイグッズだ」
　そう言って剛田さんが取り上げたのはバラムチのひとつです。へろへろっとした平べったいひもが、１０本くらい束ねられています。ひもの長さは４０ｃｍくらい。
　剛田さんが、わたしの後ろに立ちました。
　うめき声で文句を言っても無視されるので、わたしはあきらめて、じっとしています。
　バチン！
　痛い！　けれど、サルグツワがなくても悲鳴をあげなかったでしょう。音は大きいけれど痛さは、長いクツベラを使って（無理な姿勢で）自分のおしりをたたくのと、あまりちがいません。
　バチン！　バチン！
「こっちは、まだ試すわけにいかんな」
　剛田さんが、ムチのグリップをわたしに見せました。オ●ンチンの形をしています。
「つぎは、これだ」

またバラムチです。でも、最初のとはまったくちがいます。長さは１ｍもあります。ひもではなく、厚みのある細長い皮のベルトです。しかも、ベルトのところどころに金属のとっ起が付いています。

そのムチを水平にかまえて、剛田さんはわたしの正面に立ちました。

まさか……！

ぶん、バッチイン！

「ぶむうううううっ……！！」

おっぱいをたたかれました。おっぱい全体がばく発したような激痛です。

ぶん、バッチイン！

「んんんんんっ……！！」

バックハンドでたたかれました。たたかれたあとも、ずきずき痛みが続きます。

「あと十発も食らわせれば、Ｂカップくらいには、はれあがるぞ。バストアップしてほしいか？」

「んんんんんんんん！」

頭をふり過ぎて、目がまわりそうになりました。

「あまり乳がでかくなると、ロリエの名前に

ふさわしくないかな」
　そのムチをテーブルにもどしてくれたので、わたしはほっとしました。
　でも、つぎのムチも痛そうです。テーブルの上でとぐろを巻いていた一本ムチ。のばすと３ｍくらいあります。細長い皮で編まれていて、先たんに向かって細くなっています。
　剛田さんが後ろに立ったので、最悪の事態はまぬがれたと思いました。
　びゅうん……バッシインン！
「んんんっ……！」
　最初のバラムチとは次元のちがう激痛です。しゅん間的な痛みではなく、ムチの中間がたたきつけられた後、おしりを水平にこすりながら通りぬけていきます。
　びゅうん……バッシインン！
　同じ方向にたたかれました。これだけ長いと、バックハンドは無理なのでしょう。
　びゅうん……パシュウウウウウン！
「んっ！　んんんんんん！」
　ムチがこしに巻きつきました。たたかれたときも痛いのですが、引きもどすときにはだを思いきりこすります。右足をつられていな

かったら、コマのように身体が回っていたと思います。
　びゅうん……ビシイッ！
「んぶうううっ！！　うううう……！」
　おまたを下から上に、割れ目の中までたたかれました。これまでよりずっとするどい激痛が、背骨から脳天までつきぬけました。そして、ふうっと意識がうすれかけました。
「ふう、ふう、ふう……」
　おまたにいつまでお痛みが残っています。
「んび……？」
　おまたにムチが差しこまれました。
　剛田さんはムチのと中を前と後ろでつかんで、割れ目に食いこませながら前後にしごきます。
　ものすごい激痛です。快感は、まったくありません。
　なんで快感の有無を持ち出したかというと。ショーツをぬいで、じかにつなわたりをしたことがあるからです。歩きかけたとたんに、ロープの毛羽が小さなびらびらの内側にすれて飛び上がってしまいましたが、しゅん間的な快感もありました。

一本ムチでこすられるのは、つなわたりの百倍も痛くて、ほんのいっしゅんも快感はありません。
「これまでの三つは、英語でいうウィップだった。つぎはケインを試してやる。日本語では、漢字はちがうがどちらもムチだ」
そんな雑学、どうでもいいです。
剛田さんが手にしたのは、細長いプラスチックの棒でした。先っぽがドングリ形にふくらんでいます。
「これは教べんという。指示棒にも使うし、悪い子のお仕置きにも使える。まあ、今の学校でお仕置きなんかすれば大問題になるがな」
ここでだって、大問題です！
指示棒の先っぽが、おっぱいをくすぐります。くすぐるだけでなく、乳首をおしこんだり軽くたたいたりもします。でも、あまり痛くありません。
「これはウイップとちがって、熟練しなくとも正確にねらったことろに当てられる」
ひっ……指示棒がすうっと下がって、割れ目の頂点をつつき始めました。

　つまり……クリちゃんをたたくという予告です。
「んんんんっ！　んんんー！」
　むだとわかっていても、必死にかぶりをふります。
「おや？　いやなのか？」
「んん、んん！」
「そうか。こんなのでは物足りないか。洗たくバサミのほうがいいのか？」
　ぎくっとしました。やっぱり、ばれてます。でも、ママがいないときだから、のぞき見されたはずはないし。新しい洗たくバサミが転がっていても、いくらわたしに前科があるからって、オナニーに使ったと決めつけられないはずです。
「力いっぱいたたいてやるから、それでがまんしろ」
「んんん！　んんん！」
　剛田さんは、もうわたしの声は無視して、すこし後ろに下がりました。そして……
「いくぞ！」
　パシイン！
「んぶうっ……！！」

予告どおりに、正確な一げきでした。ナイフで切りさかれるようなするどい大激痛がばく発して、脳天までつきぬけました。

じゃああと、おしっこをもらしたのを感じながら、私は気絶しました。

――意識を取りもどして。私はこおりつきました。

ソファでママが犯されています。それも、ふつうのＳＥＸじゃありません。

剛田さんがソファのふちにねそべるみたいにこしかけて（というよりも、ねています）ママはソファに上がってひざをついて、対面騎乗位です。そして、剛田さんの足のあいだにお兄さんがひざ立ちで割りこんで、ママの両手を後ろに引っ張っています。ママのおしりの割れ目に、お兄さんのオ●ンチンが出入りしています。さらに、弟さんが剛田さんをまたいでソファの上で仁王立ちになって、ママにフェラをさせています。つまり、三穴同時です！　ママだけでなく、剛田さんたちも全らです。

沙都子さんは姿が見えません。ママは、こんなはずかしい場面を他人に見られたくない

に決まってますし、沙都子さんだって見たくないですよね。
　ママの手をつかんでいるお兄さんがペースメーカーになって、パンパンパンとこしを打ちつけ、それに合わせて剛田さんが下からつき上げ、弟さんはママのかみの毛をつかんで前後にゆすっています。
「んぶ、んぶ、んぶ、んふ〜」
　わたしとちがって、ママのうめき声はちっとも苦しそうではありません。
　じゅっぽ、じゅっぽ、じゅっぽ……
　ぱん、ぱん、ぱん……
　ひわいな音がひびきまくってます。
「ふう……」
　ママのお口をオナホにしていた弟さんが、最初に射精したようです。
　すぐに、お兄さんも。
　二人がはなれると、剛田さんはママをつきのけました。二人とちがって、オ●ンチンはぼっ起したままです。
「どうだ、勉強になったか？」
　身体を起こして、剛田さんがわたしに笑いかけました。

剛田さんは全らでぼっ起したまま、最初のバラムチを手にして、わたしに近づきました。「一度だけ、チャンスをやる。気が変わっていなければ、さっきの３倍だ。それでも気が変わらなければ、さらに３倍。言ってる意味はわかるな？」

思い出しました。ママといっしょに、わたしも調教されるのです。無理強いはしないけれど、気が変わるまでわたしにいろんなムチの味を教えてくれるのです。

でも……調教を受けることを承知したら、やっぱりムチでたたかれるでしょう。それだけじゃなくて、しばられたり、かん腸とか針とかロウソクとかも。

実のむすめを犯す父親なんかめずらしくないと言ってたくらいですから、きっと犯されるでしょう。もう想としてはオカズになりますが、現実としては……やっぱり、よくないことだと思います。

剛田さんが、べりべりっと乱暴にガムテープをはがしました。すごく痛いけれど、ムチよりはましです。お口につめられていたショーツも引っ張り出されました。

「どうだ。親子まとめて調教をしてほしくなったかな？」
「……はい」
　ほかに返事のしようがありません。きょ否して、もっとひどいごう問をわざと受けるほど、わたしはマゾじゃありません。
「よし、これで決まりだな。２週間たっぷり、調教してやる」
　２週間では終わらないと思います。ママが剛田さんと結こんすれば、わたしへの調教もずっと続くでしょう。
　どんなふうに調教されるんだろう――ムチでたたかれた痛みがうすれると、ちょっぴりだけこうき心がわいてきて、胸キュウンでおまたムズムズになりかけてます。
　わたしはナワをほどかれて、はだかのまま剛田さんの前にひざまずかされました。
　この家で暮らすルールを教えられました。細かいことや例外とか、ゴチャゴチャ言われましたが、要約すると。
・命令には絶対服従。
　　きょ否のことばは一切禁止。
　　質問すら許されません。

・わたしの一人しょうは、ロリエです。
・四人へのよびかけは、
　お父様、
　ツヨシ（ヒロシ）お兄様、
　サドお姉様。
・必ず敬語を使うこと。
　たったこれだけでした。
　だけど。養子えん組をしなかれば他人だなんて言っておいて、お父様と呼ばせるというのは、どういうつもりでしょうか。
　わたしには父親がいません。ママは●６才でわたしを産みました。不純異性交遊（純すいなれん愛だったと、わたしは信じています）の結果なので、わたしの戸せきの父親らんは空白です。
　だから、剛田さんがお父様でもパパでも、あまりていこうは感じません。
　でも、ご主人様って呼ばされるほうが、ＳＭぽくていいんじゃないかと思います。
　わたしがルールを教わっているあいだに、ママはシャワーを浴びてきました。そして、はだかのまま、私の横に正座しました。正座とは、ちょっとちがいます。両足を６０度く

らいに開いています。
「これがメスどれいの座り方なのよ。ロリエも覚えなさい」
　足を開くだけでなく、かかとを立てて、その上におしりを乗せるんだそうです。実際にそうしてみると、おまたの風通しがスウスウして、ものすごく無防備な感じです。しかも、手はももの上に置いて、絶対に動かしてはいけないのです。サディストの側からいえば、さわり放題ってことですよね。
　だけど……メスどれいかあ。結こんしても、ママは剛田さんのおくさんじゃなくて、フルタイムのメスどれいになるのです。メスどれいのむすめは、やはりメスどれいですよね。
　お父様、お兄様って呼ばせてもらえることに感謝しなくちゃいけないと思いました。
「それでは、調教のレッスン・ワンといくか」
　お父様が立ち上がって、大画面テレビの横にさりげなく置いてあるボックスからロープを取り出しました。
「わしは、もちろんロリエだが。ビッチはどちらがしばる？」
「親父みたいに手際よくできないから、共同

作業にするよ」
　二人のお兄様が、ママをわたしから少しはなれた位置まで（足でけって！）動かしました。
「ロリエはキンバクが好きだったな？」
　開きゃく正座しているわたしの後ろにひざ立ちして、お父様が――質問ではなくて言葉責めですね。
「あ……」
　だまっていると、手首をつかんで背中に持っていかれました。ひじよりも高くねじ上げられて、重ねられた手首にロープが巻きつけられました。
「え……？」
　わたしは、うろたえました。
「どうした？　しばられる覚ごもできていなかったのか？」
「そんなこと、ないです。でも……いきなり、手をしばるから」
「当然じゃないか」
　お父様の声に戸まどいが聞き取れました。
「まずていこうをふうじておいて、それから料理にかかる。当然の手順だ」

ああ、そうか。言われて、納得です。

キンバクは、ていこうをふうじる手段なのです。その気になればいくらでもていこうできる状態でおっぱいをしばったり、おまたをいじめたりするのは、なれ合いですよね。

でも、ほんとうに……手首をしばられてしまうと、これから何をされるにしても、反げきもていこうもできません。

そうです。がんじがらめにしばられていなくても。もしも今、クリちゃんを洗たくバサミではさまれても、自分では取れないのです。

頭がくらくらしてきて、胸がキュウンってしめつけられちゃいます。

手首をしばっているロープが前にまわされて、おっぱいの上をしめつけました。背中で手首の結び目にクロスさせて(と思いますが、自分では見えません)、こんどはおっぱいの下をしばられました。

自ばくのときは、無意識に手加減してたのでしょう。こんなに厳しく圧ぱくされたのは、初めての体験です。

あ……わきの下をロープがくぐって、胸の上下に巻かれたロープをひとまとめにしてし

めつけられました。
「くうう……ん」
　ママが三穴を同時に犯されてたときみたいな、エッチっぽいうめき声を出しちゃいました。
　おまたのおくがムズムズはしてないんですけど。ひぎゃく感？　それが、全身を包みます。
　ふらあっと身体が宙をさまよって……トン、と背中に軽いショックを感じました。お父様の胸にたおれこんだみたいです。
「おどろいたな……」
　わたしをからかうとかじゃなくて、ほんとうにおどろいている声です。
「いきなりの『なわよい』か。実質的に初体験で、しかもまだ●２才……ビッチ、おまえのむすめは生まれついてのドMだぞ」
　生まれついてのドMだなんて、ものすごいぶじょくに聞こえますけど、お父様は心の底から感じ入っているみたいです。
　ママからの返事は、ありません。悲しみのあまり絶句してるのか、二人のお兄様たちにしばられて、それどころではないのか――た

しかめる気にはなれません。
　生まれて初めての（ほんとうの意味での）キンバクに、わたしはぼう然自失です。言葉の使い方を間ちがえてるかもしれません。
「そうとわかれば、わしも気合をいれよう」
　気合を入れたキンバクって、どんなんだろう？
　こわいのが半分とこうき心が半分――というのはウソです。ワクワクドキドキで、おまたムズムズを一気に通りこして、じゅくじゅくしちゃってます。
　首にロープがかけられました。
　ひしナワです――と思ったら。前に垂らされたロープは短くて、おっぱいの谷間（上下から圧ぱくされて、おっぱいが飛び出しちゃってます）をしばられただけです。それでも、上下のロープがくっつくまでしぼられて、ますますおっぱいへの圧ぱくが強くなりました。
　上下左右から圧ぱくされて、おっぱいが苦しいです。それが、すごく気持ちいいです。
「はああ、ああんん……」
　色っぽいため息が出ちゃいました。アクメるときの切ぱくしたあえぎではなく、切なく

てあまったるい気分です。頭もくらくらではなくなって、ぽわんとしてきました。お酒によっぱらうと、こうなるのかも……あ、『なわよい』の意味がわかりました。

お父様がわたしの足首をつかんで、座ぜんを組ませます。割れ目が丸見えです。

これだけでも、すごくはずかしいのに――ひざが動かないように足でおさえながら、お父様はわたしのかたをつかんで、そっと前にたおしました。横向けた顔と両かたがフローリングにおしつけられます。

このポーズだと、おしりを高くつき上げているはずです。割れ目どころか、割れ目の中もおしりの穴も、全部見られてしまいます。はずかしさで、全身が熱くなります。

「いやあ……こんなの、いやです」

半分はウソです。ナワによっぱらっているところに、はずかしさが加わって、ひぎゃく感がレッドゾーンです。

ぺちんと、強めにおしりをたたかれました。

「イヤは禁止だと言ったぞ」

「はい、ごめんなさい」

素直にあやまりました。そして、よっぱら

っているせいでしょう。とんでもないことを口走っちゃいました。
「いやじゃないです。もっと、いじめてください」
　ふう――と、お父様がため息をつきました。あきれたのかもしれません。
　お父様は新しいロープを持ってきて、私に見せつけました。黄色がかって、ものすごく毛羽立っています。アラナワです。それを二つ折りにして、わたしのこしに巻きました。
　はだにチクチクつきささります。
　おへその下で結び留められて。お父様は、わたしに後ろからだきつく形になって、もぞもぞと手を動かしています。なにをしているか、見当はつきます。
　でも。こしに巻かれたアラナワが２本ということは、結び目は４本まとめてになります。すごく大きくなります。
　予想通りでした。お父様はわたしの割れ目をクパアして、そこに大きな結び玉をおしこみました。
「い、痛い……！」
　毛羽がするどい針みたいに、びらびらの内

側につきささります。つなわたりにちょう戦したときより、ずっと痛いです。
　それなのに、おまたのおくが――ムズムズではなく、ぎゅううっとつき上げられるような不思議な感覚です。胸は、ねじ切られそうなくらいにキュウンってなってきます。
　あ……おしりの穴にも、前よりは小さいけれど、結び目が食いこんできました。こっちは、あまり痛くないです。ひぎゃく感よりも、エッチな気分がこみ上げてきます。
　ナワふんどしが完成すると、また身体を起こされました。
　お父様は後ろからわたしの脇に手を差し込んで、おっぱいをすくい上げるようにして胸をかかえ、もう片方の手でナワふんどしの前を握って。
「よっこらしょっと……」
　と、わたしを持ち上げました。
「きひいーっ！　痛い、痛い！　や……」
　ヤメテも禁止のはずです。
　でも、がまんできない痛さです。だって、体重の半分くらいはおまたのナワで支えています。こんなひどいことをされるのも、わた

しが「もっといじめてください」なんて言ったせいです。
　わたしは、わたしとママの部屋へ運ばれました。
「えええーっ！？」
　部屋には、ママと二人のお兄様もいました。
　ママは天じょうからつるされています。両手はひとまとめ、足は左右別々にしばられて、ブリッジをひっくり返したみたいな形です。
　ママは苦しそうに顔をゆがめています。きっと、かたに負担がかかっているのだと思います。
「１時間ばかり休ませてやる」
　お父様がそう言って、三人そろって部屋から出て行きました。
　休ませるだなんて、ウソです。とくにママはごう問を受けているのと変わりません。それは、まあ――わたしでも、１時間ずっとムチでたたかれるのと、ママと同じ格好で放置されるのと、どちらかしか選べないなら、つるされるほうを選びますけれど。
　ママの苦しそうな顔を見ているうちに、胸のキュウンも、おまたのおくのしぼられるよ

うな感覚も、だんだん消えてきました。頭も、だいぶんしゃっきりしてきました。
「ママ、だいじょうぶ？」
「平気よ。するが問いは、何度もされているから」
　わたしを安心させようと、ママはウソをついています。
　わたしも、いつか（もしかしたら今日にでも）するが問いをされるかもしれません。こんな残こくな責めを、わたしは望んでいません……と、思います。
「ねえ、ママ……」
　わたしは、ずっと疑問に思っていたことをたずねます。
「ほんとに、わたしの自ばくオナニーをやめさせようとして、こんなことをしたの？」
　ふだんだったら、とてもママに言えない単語（オナニー）も、すらすらと出てきます。全らで厳しくしばられているせいです。
「それも、ほんとうよ」
　なんだか歯切れの悪いお返事です。
「でも、もともとは、だんな様のご命令なの」
　ママのお話は、あっちへ飛んだりこっちへ

もどったりで、わたしも、おまたの結び目にチクチクしげきされて、理解するまでに時間がかかりました。それをまとめると――

　もう１年くらい前から、お父様はわたしを調教したがっていたそうです。当然ですが、ママは断固反対です。ＳＭプレイじゃなくて、しかもママのではなくてわたしの人生ですから、命令への絶対服従は関係ありません。

　ママは、わたしのひとり遊びに１学期のころから気づいていました。自分にはしかる資格がないと考えて、お父様に相談したそうです。これがち命的でした。

　ひとり遊びをするくらいなら、わしが調教してやる。そのほうが安全だと、ママに提案しました。

　う余曲折というのがあって。あたしの部屋にかん視カメラを付けて様子を見ようということになりました！　だから、だっ出できなくなったひとり遊びは、最初からかん視されていたのです。わたしが絶望するタイミングを見計らって、助けてくれたのです。洗たくバサミにちょう戦したのも、全部見られていたのです。

わたしは自分用のＰＣもキッズスマホも持っていませんから、インターネットはママのＰＣからです。けい示板のえつ覧り歴から、わたしがＳＭ系出会いサイトとかヴァーチャル調教とかを見ているのもバレバレでした。

間ちがいを起こすよりは、正しく調教してもらったほうがむすめのためになると――ママは決心したそうです。

ふつうなら、こんなキチクなことを考えるママをうらむところです。大声でママを非難する権利が、わたしにはあります。でも、わたしは……

「そんなにママが言うんなら、２週間だけ調教を受けてみる」

と、言ってしまったのです。

ムチは痛かったし、このまたナワも痛くて（今はひぎゃくモードじゃないので）不快なだけですけれど。しばられたときの、あの感覚は、これまでに体験したことのない、エッチとはちょっと方向のちがう快感でした。もういちど『なわよい』を体験できるなら、痛いほうのバラムチや３ｍの一本ムチで、はだがさけるまでたたかれてもかまわない。そう

思ってしまうほどの快感でした。
　まだまだ、わたしの知らない快感があるのかもしれません。
　そして。その快感を知ってしまったら……ママの結こんに大賛成するかもしれません。

３．家族で入浴

１時間後かどうか、正確にはわかりませんけれど。お父様と二人のお兄様がもどってきてくれました。

私もママもナワをほどかれて、バスルームへ連れていかれました。

だつ衣室にはサドお姉様が待っていました。全らで、メスどれいの座り方をしています。わたしたちとちがって、おまたには毛があります。ちっちゃなハート形にお手入れしていました。

私とママも、お父様たちが服をぬぐあいだ、お姉様とならんでメスどれい座りです。

ぼっ起したオ●ンチンを間近に観察する（さっきは、そんなゆとりなんかありませんでした）のは、生まれて初めてです。画像とは、はく力がちがいます。生ぐさいにおいに、むせそうになります。

バスルームでおしくらまんじゅうをするつもりなのかな――なんて心配は無用でした。バスルームというより、屋内小プールです！

まさか本気では泳げませんが、バスタブは長さが４ｍくらいでおく行きは１ｍ半かな。洗い場は、その２倍以上の面積があります。

それぞれにかけ湯をして。

「ロリエ、こっちへおいで」

お父様がまっ先にバスタブにつかって、わたしを手招きしました。

知らない男の人といっしょにおふろだなんて、やっぱりていこうがあります。もう、おまたのおくまで見られてるし、身体じゅうさわられてるし、ムチでたたかかれてるし、キンバクもされていても、それとこれとはちがうと思います。

ママに相談しても、命令に服従しなさいっていわれるとわかっていますが、やっぱりママをふり返って、あわてて目をそむけました。

ママとお姉様は、洗いイスに座った二人のお兄様の前に土下座するような格好で、フェラチオをしていました。

「ロリエ、さっさと来い」

お父様の声がけわしくなりました。

わたしはあきらめました。マナーどおりにかけ湯をして、お父様に背を向けておまたも

洗って。片手でおまたをかくして、バスタブをまたぎました。
　お父様に手をつかまれて、引き寄せられました。
「わしの上に座りなさい」
　お父様のこし（というか、オ●ンチンの上）を、またがされました。さらに引き寄せられて、お父様の胸に背中をあずけました。広い広いバスタブの中で、お父様と密着です。
「断わっておくが、ビッチもサド子もいやらしいことをしているのではないぞ」
　お父様の両手がおっぱいをつかんで、もぎゅもぎゅともみ始めはした。ちょっと痛いです。２時間前だったら、とても痛いと思ったでしょうが、ムチの激痛を知ってしまったら、これくらいで大げさな表現は使えません。
「かけ湯だけではよごれが落ちんから、ああやって清めているのだ」
「わた……ロリエだって、かけ湯だけですよ？」
　お父様もかけ湯だけですけど、指てきする勇気はないので、自分のことを言いました。
「おまえは、かまわん」

お父様の右手が下にすべって、割れ目をなぞります。
「ひゃう……痛い！」
指をつっこまれました。
「だいじょうぶ。これしきで処女膜は破れたりせん」
そういう問題じゃないです。
「若い女の愛液は、強精のみょう薬だ」
「くううう……あん……」
女の子の穴の中をグリグリされて痛かったのですが、クリちゃんをつままれて、快感が勝っちゃいました。
「よく見ておけよ。あとで、ロリエにもやらせるからな」
あんなエッチでくつじょく的なこと……イヤって言ったらムチなんでしょうね。
ママとお姉様が立ち上がりました。二人のお兄様のオ●ンチンは、まだぼっ起したままです。
ママは、かべに立てかけてあったマットをゆかにおいて、表面をシャワーで洗っています。その横では、お姉様も同じことをしています。

ママが洗い終わったマットの上にツヨシお兄様が、お姉様のマットにはヒロシお兄様がうつぶせにね転がりました。
ママとお姉様は、ボディソープとスポンジで全身をあわまみれにしました。
「お身体を洗わせていただきます」
土下座平ふくして。それから、お兄様の背中にだきつきました。足をからめながら、ウネウネグニグニと全身をくねらせます。つまり、ママは自分の身体をスポンジにして、お兄様の背中を洗っているのです。
「ボディ洗いというテクニックだ。昔は、これができなければソープじょうは務まらなかった」
そんなもの、務めたくない……かなあ。ソープって、風ぞくの頂点でしょ。ものすごくお金になるって聞いたことがある（そりゃ、そうですよね。なんたって売春だもの）。エッチなわたしには適性があるんじゃないでしょうか。
そんなことを思ってしまったのは。お父様の左手が、手の平でおっぱいをもみながら指先で乳首をこねくっているせいかもしれませ

ん。女の子の穴を指でイタズラされる痛みさえ、エッチな気分を盛り上げています。
　お兄様が、あお向けになりました。
　ママは、やはりだきついたまま、ウネウネグニグニ。
　ひええ！　おまたの中に、オ●ンチンがはいっちゃいました。
　ママは、いっそう身体を密着させて身体をくねらせ続けています。
「あれをツボ洗いという。覚えておくだけでいいぞ。まだ、おまえにはやらせない」
　それって、つまり――バージンは残しておいてくれるってことでしょうか。
　でも、『まだ』ってことは――いずれは、バージンを破られるってことですよね。それは、お父様にでしょうか。お兄様のどちらかでしょうか。どうせなら、貴公子ぽいツヨシお兄様がいいです。あわわ……いまのウソです。
　お父様にうばわれるのが、やっぱり最悪です。そうなったら、わたしは必死でていこうすると思います。そうしたら、またごう問されるのでしょうか。それとも、キンバクされてレイプされるのでしょうか。理想のロスト

バージン……これも、ウソです！
　オナニーのもう想にはいいけれど、現実になるのは、やっぱりこわいです。
　そんなことを考えていたせいでしょうか。それとも、お父様にクリちゃんを責められ続けたせいでしょうか。おまたのおくが、ジュンジュンしてきました。
　でも、むねはキュウンってなりません。すこし不思議です。
「おそまつ様でした」
　ボディ洗いが終わりました。お兄様が立ち上がって、ママはメスどれい座りで、シャワーを上に向けてお兄様の身体から石けんを流し始めました。ママのあお向けた顔にもお湯がかかりますが、平気なようです。平気でなくても、がまんしないといけないのかもしれません。
　お兄様たちがバスタブにはいってきます。わたしとお父様には近づいてきません。
　マットを洗ってから、ママとお姉様もはいってきました。
　わたしは、お父様に言われてバスタブから出ます。

マットが、ひとつだけタイルの上に残されています。
お父様が洗いイスにこしを下ろしました。
わたしも、お父様の前にメスどれい座りです。
この洗いイス、変な形をしています。まん中が大きくへこんでいて、タマがすごく楽ちんそうです。ぼっ起していなければ、オ●ンチンも、すっぽり収まるでしょう。
「やり方は覚えているな？」
とうとう、このしゅん間がやってきました。生まれて初めてのフェラチオです。
「あーっ！」
とんでもないことに気づきました。
「なんだ、いきなり？」
お父様も、びっくりしています。
「お願いです。キスしてください」
さけんだ勢いで、とんでもないことを（犯してくださいとか、いじめてくださいよりは、とんでもなくないと思います）お願いしました。
「なんだと？　わかるように言え」
「ええと……わたし、まだキスしたことがな

いんです」
　幼ち園のときに、ソラくんと真似事をしましたが、あれはノーカンです。
「キスより先にフェラチオだなんて、順番がおかしいと思います」
　お父様は、ぽかんとあたしの顔を見つめて。それから、大声で笑い出しました。オ●ンチンが、すっかりうなだれてしまいました。
「わはははは、たしかに、そうだ。キスの前にＳＥＸを経験するむすめは、いないこともないだろう。おまえも、レイプされたら、そうなっていたわけだ」
　くっくっくと、まだ笑っています。
「しかし、フェラチオは合意がなければ無理だからな」
　無理やりお口にオ●ンチンをつっこまれたら、ふつうはかみつくでしょう。わたしは、ふつうじゃないかもしれませんけれど。
「つまり、おまえはだれもしたことのない体験をするわけだ――しゃぶれ！」
　オ●ンチンがググーっと太くなって、ななめ上を向きました。
　お願いは聞いてもらえませんでした。しつ

こくお願いする勇気は、ありません。
　わたしはタイルに両手をついて、顔をオ●ンチンに近づけました。
　目の前にあるのに、オ●ンチンがはっきり見えません。なみだをボロボロ流しているのに、やっと気がつきました。
　自ばくオナニーをしたり、レイプをもう想したりするくせに、わたしは意外と純情なのかもしれません。
　目をつむって、オ●ンチンをくわえました。おふろの後でも、男の人のにおいが、鼻いっぱいにあふれます。だん力のある太いかたまりは、魚肉ソーセージに似ています。ソーセージより太いですけど。なんだか、キュロンとした舌ざわりです。
「かむんじゃない」
　かみの毛をつかんで、引きはがされました。
「口は大きめに開けて、くちびるをつき出す感じでペニスに密着させろ」
　ファーストキス（泣いちゃいます）をすませると、度胸もつきました。なみだはかわいて、オ●ンチンの形もはっきり見えるようになりました。

見れば見るほど、シンプルです。サラミソーセージの先に、丸いカップですくったアイスクリームを乗っけたみたいです。そうとでも思わなければ、お口に入れられません。
なんて、観察してる場合じゃないですよね。
あむっと、お口にくわえて。言われたとおりにしました。
「それでいい。舌でなめてきれいにしろ」
ん……れろれろれろ。
「カリクビの裏は、特に念入りにな」
えっと……アイスクリームのふちのことですね。れろれろれろれろれろれろ。
においが気にならなくなってきました。
「よし、上出来だ」
そう思うんなら、かみの毛をつかんで引っぺがすのはやめてください。
「つぎはボディ洗いだ」
お父様は、マットの上にゴロンとね転がりました。
わたしは、ボディソープをスポンジにたっぷりふくませて、全身をごしごし。あわまみれにします。ママを見習って、土下座平ふく。
「お身体を洗わせていただきます」

身体じゅうをいじられてあえいでいても、お作法はちゃんと覚えています。学校の勉強も、これくらい覚えられたらなあ。

うわ……お父様の背中にだきついたのですが、すごくバランスが取りづらいです。このマット、うき輪と同じで、空気でふくらんでます。ボヨンボヨンして、お父様も私もグラグラゆれます。すべり落ちちゃいそうです。なので、自然とお父様にしがみついちゃいます。

おそるおそる、身体を上下に動かしてみました。すっごく気持ちいいです。ソープでぬるぬるしてるから、くすぐったくありません。身体じゅうを愛ぶされてるみたいです。でも、し激が弱くて、物足りません。おっと、これはオナニーじゃなかったです。お父様へのご奉仕です。

わたしの身体は小さいから、うんと下まで動かないと、おしりまで洗えません。ずにゅうっとおっぱいがすべって、快感が高まります。

ええと……足を開いて、おまたをお父様の太ももにこすりつけます。あんっ……ますま

す快感が高まります。角オナみたいなするどい快感ではなくて、もどかしさにもだえそうになる快感です。

んしょ、んしょ……

ウネウネグニグニ。にゅるにゅるにゅるにゅる……いつまでも続けていたいです。

「きゃ……！」

わたしを乗せたまま、お父様があお向けにね返りました。

ふり落とされそうになって、ぎゅっとしがみつきます。

んしょ、んしょ……ボディ洗いを再開です。ひざを曲げて下へ動くたびに、おまたにオ●ンチンが当たります。クリちゃんは当たらないので、そんなに快感はありません。でも、バスタブの中でイタズラされてたとき以上に、エッチな気分が高まります。イタズラされてるんじゃなくて、イタズラしてるからでしょうか。ほんとは、そうするように命令されて、いやいや（ということにしときます）やらされてるんですけどね――そう思ったら、ひぎゃく感までわいてきました。

わたしは、まだツボ洗いはできませんけど。

オ●ンチンにおまたを強くおしつけて、こしを上下に動かしてみました。ツボ洗いごっこです。エッチな気分が最高潮です！
「わしの身体で遊ぶとは、いい度胸だな」
　パチンと、おしりをたたかれました。ちっとも痛くないです。
　お父様が、急に身体をひねりました。ソープでぬるぬるしてるし、マットはポヨンポヨンしてるし。わたしはタイルのゆかまですべり落ちちゃいました。
「合格点をやる。将来は立派なソープじょうになれるぞ。そのつもりで、明日からは仕こんでやる」
　マゾに調教するんじゃなくて、ソープじょうに？　なんて考えこんだりはしません。きっとじょう談です。それだけ、わたしのご奉仕を気に入ってくれたということでしょう。
「はい、よろしくお願いします」
　わたしも悪乗りです。
　メスどれい座りで、顔にかかるシャワーを息を止めてがまんしながら、お父様の身体を洗い流して。
　今度は六人いっしょていうか、三カップル

でバスタブにつかって。わたしもママもお姉様も、身体じゅうあちこちイタズラされて。おふろは終わりました。

お父様と二人のお兄様が身体をふいて着がえ終わるまで、わたしたちはぬれたままでメスどれい座り。男の人たちがだつ衣室から出ていってから、自分の身体をふきます。

お姉様は、ちょうミニのメイド服（だけです。ノーブラノーパンです）を着ましたが、わたしとママは、はだかです。

お父様が、わたしたちに着るものをくださいました。といっても……

ママは、ふちにフリルをあしらった花がらのエプロンです。常識（かなあ？）ですが、素はだに着けるのです。胸当てが小さいので、横乳がはみ出ちゃいます。どころか、また下ゼロｃｍの短さです。

わたしは、ちゃんとスカートをいただきました。また下も５ｃｍくらいはあります。つりスカートなので、きちんと着れば乳首くらいはかくせます。

「ロリエくらいの年ごろは、つりスカートが似合うな。最近はひざたけのデニムスカート

やらスラックスやら、けしからん服装がはんらんしている」
　けしからんのは、お父様のほうだと思います。
　あ。わたしが持ってきた着がえの服や下着は、全部ぼっ収されました。ママは、最初から何も持ってきていませんでした。無だになるのも知らずに、あれこれなやんで着がえを選んでいたわたしを、ママはどんな気持ちでながめていたのでしょうか。
　我がむすめをサディストに差し出すという所業よりも、そちらのほうをうらめしく思います。
　着がえが終わると、ママはお姉様を手伝って晩ご飯の支度です。
　わたしは、宿題に取りかかりました。お姉様が決めたノルマを達成しないと、明日はお仕置きだそうです。
　どんなお仕置きを受けるのでしょうか。今日のムチ打ちは「お試し」だそうですから、それよりも厳しくなると思います。
　わざとサボって、お仕置きを受けてみようかな……なんて、絶対に思いません！

４．調教ルーム

思わなくてよかったです。

夕食は午後８時からでした。今日は平日でもわたしたちのかんげい会（？）で三人とも仕事はお休みですが、食事の時刻はいつもどおりだったのです。

ちなみに、今日は金曜日。明日から２日間は、朝から夜まで調教タイムなのです。

その調教に使うお部屋を、今夜のところは見学だけです。この広いリビング（２ＬＤＫ全体がはいるほどの広さです！）で調教されるのかと思っていましたが、メスどれいの悲鳴はテレビのじゃまになるし、ゆかをよごされたくないのだそうです。わたしをムチでたたいたときも、失禁にそなえてレジャーシートをしきましたものね。

調教ルームは、屋上にありました。プレハブの倉庫みたいですが､完全防音だそうです。１０階からは専用のエレベーターで上がります。ママもわたしも、人に見られたら困る服装ですが、屋上の周囲は広告の看板でびっし

り目かくしされています。
　調教ルームに足をふみ入れて。わたしは、ぽかんとお口を開けました。きょうふを感じたのは、しばらく経ってからです。
　三角木馬、はりつけ台、ガラス張りの大きな水そう。それと、産婦人科のしん察台みたいなイス。わたしに理解できるごう問道具は、これくらいです。大きなふみ台とか、エアロバイクとか、水平にねかしたハシゴとかは、どう使うのか見当がつきません。
　かべには、たくさんのムチが並べられています。わたしをたたいたムチもありました。別の一面には、いろんな形をした手じょうとかカセがびっしりです。
　ここにある道具全部をわたしに使うつもりなら、２週間では足りないでしょう。やっぱり、結こんを前提のおつきあいです(なんて、ふざけてるのは、きょうふをまぎらわしたいからです)。
「あれをごらん」
　お父様が天じょうを指さしました。細長い金属の箱が水平にぶらさがっていて、そこからフックのついたくさりと、リモコンみたい

なのが垂れています。
　お父様がリモコンを操作すると。
　イイイイイイ……細長い箱が前後に動いて、くさりが左右に動きました。
　チャリリリリ……フックが下りてきました。
「……！」
　工場見学を思い出しました。これは、天じょう走行クレーンです。重い荷物も軽々と運んでくれます。だけど、このクレーンは荷物ではなく、わたしやママ（もしかするとお姉様も？）を、運ぶのではなくつるすために使われるのでしょう。
「ここには、ＳＭプレイのアイテムはほとんどない」
　お父様が変なことをおっしゃいました。でも、つぎの言葉を聞いて、背筋がぞーっとしました。
「ここにあるのは、マゾメスのひぎゃく願望を満たすためのアイテムではなく、願望をはるかにこえる厳しい責めを加えて、なみだと悲鳴をしぼり出すための装置だ」
　わたしは、三角木馬の前へ連れて行かれました。

木馬のとがった部分は、三角形の金属でできています。三角形の各辺は直線ではなく、内側にくぼんでいるので、実際の角度は６０度以下です。
「おとなしくしていれば痛いだけですむ。しかし、すこしでもあばれると……」
お父様が指差した木の部分は、どす黒く細長いよごれがしみついています。血のあとです。
「あばれなくても、こういう物があるぜ」
タケシお兄様が大きな木づちを持ち上げました。ゴンっと、木馬のはしをたたきました。
自分の絶きょうが聞こえたような気がしました。
そんな調子で、お父様はごう問機械のひとつずつを解説してくれました。
エアロバイクは、サドルから２本の棒がつき出ています。太いオ●ンチンの形をしています。２本のオ●ンチンは、ペダルをこぐと上下します。歯車の比率がちがっているので、２本同時に上下したり交ごに上下したりします。ペダルは強制的にこがされます。セットされた速度以下になると、女の子の穴とおし

りの穴との間に、高圧電流が流れるのです。

世界最強のダイエット器具だと、お父様はおっしゃいました。

もうひとつ、強れつなのがあります。ジョギングマシンです。これは、何も改造されていません。おまたの高さに張るロープの巻き取り機が別に置いてあるだけです。キンバクされてこしナワをマシンにつながれると降りれなくなるので、転ばないためにはジョギングしなければならないのです。オプションは洗たくバサミです。こしナワがピンと張る前に、乳首とクリちゃんが千切れそうになります。

大きなふみ台は、その上でダンスをおどるお立ち台でした。ゆるくカーブしている棒はこしの高さなので（身長に合わせて調節できます）自分では乗れません。クレーンでつり下ろされるのです。棒がおまたにつきささると、自力ではだっ出できなくなります。

この棒は、モーターの力で回転します。オ●ンチンの形はしていませんが、金属のイガイガ（ねんまくを傷つけないように、先っぽはちょっとだけ丸くなっています）が、びっ

しり植え付けられています。
　アクメりながらベリーダンスの特訓ができる、素晴らしい装置です。
　丸テーブルを垂直に立てたような道具は、はりつけに使います。このテーブルも、モーターで回転します。回転速度は自由にコントロールできるし、と中で止めるようにプログラムを組むこともできます。
　それだけなら器械体操の特訓ですが、丸テーブルの下から３分の１くらいは、とう明な水そうに囲まれています。せん水の特訓装置なのでした。
「サーモグラフィでバイタルをかん視するし、水面のあわをチェックするセンサーもある」
　だから見張っていなくても安全なのだそうです。
　連続して水責め（ちっ息責め）を受けながら、何時間も放置されている自分の姿を想像して、胸の底に氷のかたまりができました。
　ギロチンかせは、おまたのおくがジュンってなりました。立ったまま上半身を水平まで折り曲げられて、うでと首を板の穴にこう束されます。女の子の穴もおしりの穴もお口も、

犯され放題のポーズです。

こういったのが大道具だとすると、電げき装置は小道具です。２本の太い棒とスポイトのついた輪っか３個とが、キャビネットに乗せられたコントローラーに電線でつながっています。オプションとして、電極パッドもあります。

高圧電流は、スタンガン以上の激痛だそうです。低周波にすると快楽責めになります。もっとも、輪っかの代わりにワニグチクリップ（電線のついたやつが、ちゃんとオプションの箱に収められています！）とか使われると、低周波でも苦痛と快感の板ばさみになりそうです。

見学が終わるころには、ごう問へのきょうふに心が満たされていました。今夜は悪夢にうなされて、おまたがぐしょぬれになりそうです。

わたしとママの部屋のベッドは、大きなダブルベッドです。そのベッドに二人並んで、手じょうと足じょう（？）で大の字にこう束されました。これからの２週間、手足が自由

なままねむれる夜はないのだそうです。
　それどころか、二人並んでねむれる夜もあまりないそうです。つまり――調教ルームで放置プレイをされるとか、ほかの部屋でだれかにだかれるか肉布団にされるかするという意味です。
　しばらくは、ママもわたしも無言です。
　大の字こう束は、ひとり遊びでもしたことがあります。足はベッドの下を通したロープでしばって。１ｍくらいの余ゆうを持たせて両手をしばったロープを、ベッドボードの向こう側に投げればいいんです。
　でも、手足をピンと引っ張るのは無理です。痛いくらいに手足を引き伸ばされて、女の子の大切な部分を無防備にさらけ出して、ひぎゃく感が全身をつつみます。
「だんな様は、ちゃんと限界を心得ていらっしゃるから、安心していいのよ」
　ママが言いました。
「でも、その限界は……ビッチがもう絶対にたえられえないと思う、そのずっと向こうにあるのね」
「ねえ、ママ。二人きりなんだから、そのビ

ッチってのは、やめようよ」
「おバカさんね。ロリエの部屋にかん視カメラを仕かけたのを、もう忘れたの？」
　ああっ！　つまり……
「わかった。ロリエも気をつけます」
「すべてをだんな様におまかせしなさい。大け我をしたり、病気をうつされたりする危険は無いから」
　万一の事故に備えて、ＡＥＤも置かれているそうです。ママは、わたしを安心させるために言ってくれたのでしょうが、わたしは、ますますこわくなりました。
　胸がキュウンとしめつけられて、おまたのおくがすくみ上ってきます。